

【事業実績】

「学校教育との連携による地域文化の担い手育成事業」

(1) 将来の担い手を育成する講座

①美術に親しむための学校ワークショップ

美術館から幼稚園・こども園・小学校・中学校へ出向いて行う出前ワークショップ/体感型・工作型・鑑賞型・絵の具ワークショップを行った。また、学校で行うワークショップと美術館での作品鑑賞を合わせた往還型ワークショップ(びじゅつかんの旅・旅じたく)を行った。今年度は48校に対し95回の講座を実施、2,554名が参加。しかし17校27講座は、コロナ禍のため中止となった。

- ・ 大分合同新聞(10/2)、小学校で行った出前ワークショップ「紙1枚で遊ぼうよ」の記事が出る(写真①)。
- ・ 大分合同新聞(11/29)、中学校で行った出前ワークショップ「長〜いポリ袋で遊ぼう」の記事が出る(写真②)。
- ・ 大分合同新聞(12/3)、中学校で行ったびじゅつかんの旅じたく「金属をたたいて作品に」の記事が出る(写真③)。



①出前 ws/ばたふわ



②出前 ws/ぼわんぼわん



③旅じたく/素材の変容



びじゅつかんの旅/一緒に見る

②OPAM ART CLUB (小・中・高生向け美術専門講座)

美術クラブは県内各地から36名の中高生が集まるが、全12回の活動中、4回がコロナ禍のため中止となる。活動最終日は制作した絵画や立体作品からプロのミュージシャンが作曲したコンサートで100名を動員する。

大分合同新聞(5/22)に美術部発足の記事が出る。またJ:com ケーブルテレビでも取り上げられ、結果、多くの入部希望者につながった。合同新聞(3/4)に、「美術」「音楽」「数学」が繋がったコンサートの様子が紹介された。

HP内ブログに掲載

[OPAM 美術部活動報告譚 by ちゃっぴー 其ノ一 | OPAM ブログ | 大分県立美術館\(OPAM\)](#)

続きが「其ノ十二」まであり。

YouTube に活動を掲載

[OPAM 美術部 その1 \(講師 パーカッショニスト・小林 武文さん\) - YouTube](#)

[OPAM 美術部その2 「聴覚から触覚、視覚へ」 \(講師 パーカッショニスト・小林 武文さん\) - YouTube](#)

[OPAM 美術部・みんなの作品から_小林氏・鈴木氏即興演奏 - YouTube](#)

Youtube にコンサートの様子を掲載

[OPAM 美術部コンサート ～「美術」と「音楽」と「数学」がドッキング! \(フルバージョン\) - YouTube](#)

[OPAM 美術部コンサート ～「美術」と「音楽」と「数学」がドッキング! \(25分バージョン\) - YouTube](#)



3回目 音を形に・色に



6回目 繰り返しの世界



7回目 即興と表現



11回目 OPAM 美術部コンサート

③大学と連携したアートマネジメント実践 (大分県立芸術文化短期大学との連携)

アートマネジメント講座は、大分県芸術文化短期大学との連携し、学生の企画を美術館で実践した。コロナ禍におけるアートの役割を再考する機会となった(写真④)。

④指導者・先生のための講座

先生のためのワークショップは5講座実施する。そのうち4講座は、実際に生徒や子ども相手のワークショップ実践を振り返る内容で、「授業のヒントになる」だけでなく、「具体的に内容を通常の授業に生かせる」「子どもと関わる中での問題点がわかった」「子どもと同じ視点になるという意味が分かった」との声が多く、予想以上の効果となった(写真⑤)。



④親子で感染予防グッズ作り



⑤指導者・先生のための講座（ひまわり幼稚園/大分市,三隈幼稚園/日田市）



「社会人ほか多様な対象者のための学習講座」

（1）博物館との連携講座

①科学と芸術を融合させ、新たな視点を提供する講座（国立科学博物館との連携）

国立科学博物館との連携では、好奇心を触発し科学を美術的視点でとらえた「未知っち、見ちっち」として、科学者と美術家の対談やワークショップ形式の6講座を開催し、のべ189名が参加した。



花の色を視る～科学者と表現者の視点から



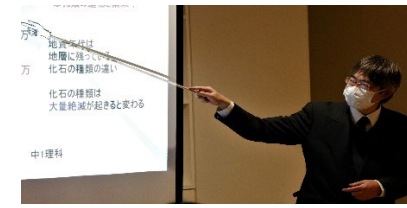
花の色を科学する～結晶標本が語る色素の魅力



色を探る・色を考える～歴史・科学・実践から綿藍脂を視る



“白”から考える生命の色さがし



超巨大火山と生命進化の謎

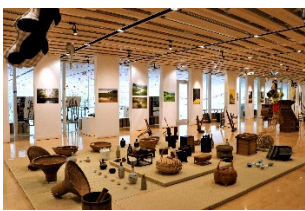


私の手からみる“私”と“ヒト”の歴史

②大分の文化財や歴史資料を活用して新たな視点を提供する講座（大分県立歴史博物館との連携）

地域の資源と大分県立歴史博物館の歴史的資料、関連した科学的資料を美術的視点で結びつけるため、美術家・安部泰輔によるインスタレーションの中（写真⑥）、5つの講座を開催、のべ92名が参加した。展示・インスタレーションはお話による鑑賞の場とした。

「展示方法が面白い」「まったく未知の世界に触れられる講座は貴重」という感想が多かった。朝日新聞(9/21)に、「歴史・科学的資料 形楽しむ展示」として紹介される。「シティ情報おいた12月号」で、子どものためのws「藁まみれ」が取り上げられる（写真⑦）。



⑥What's Museum? II 「お米とお酒を視る」この中で講座を開催



醸しの世界へようこそ



道具の博物誌

～農耕図絵馬から読み解く道具と暮らし



大分県のお米～内成物語



⑦子どものためのws 藁にまみれて



子どものためのws 撚って編んで、何にする？

（2）新たな美術ファンを増やすための社会人向け講座

①美術に関心を持ってもらうための講座

社会人向けに「西洋絵画の歴史」をテーマとした講座を3回（①ルネサンス②新古典主義③印象派）開催し、のべ82名が参加した。